

平成29年度 研修紀要

第31号

# 翠 松

思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成

～協同的な学びの充実を通して～

沼田市立沼田東中学校

## 研究の概要

### 1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成

－協同的な学びの充実を通して－

### 2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標として「敬愛」「誠実」、生徒目標として「自発」「責任」「協力」「礼儀」を掲げ、確かな学力を身に付けさせる指導の工夫や充実を学校経営の重点の一つとしている。

本校の生徒は、全体的に素直で明るく、与えられた課題に対して自力で解決しようとする姿勢が見られる。しかしながら、グループ活動においては、自分の意見や考えをもつことができるが、それを発表するだけになってしまいがちである。つまり、考えを深めよう、より良くしようという意識が低かったり、学習への構えが受動的であったり、あるいは、考えを深めようという意識はあるが深まらない、上手く表現できないという生徒が多く見られる。よって、思考力・判断力・表現力を高めるためには「協同的な学び」を充実させる形態や支援を工夫することが有効であろうと考えた。そして、それは結果的に学校教育目標、生徒目標の達成につながるであろうと考えた。

これまでは、「振り返り」に焦点を当てながら生徒の「思考力・判断力・表現力等の向上」を図ることをねらって研究に取り組んできた。一昨年度は、「振り返りの生徒の姿」を想定して活動内容を精選し、授業の終末に振り返りを行うことが学習を自覚する上で重要だと分かった。昨年度は、「振り返りの視点や方法」を吟味しながら授業実践をしてきた。今年度は、学びをより深いものにするために、「協同的な学び」を充実させるような学習形態や支援の工夫を進め、更に生徒の思考力・判断力・表現力を高められるようにする。

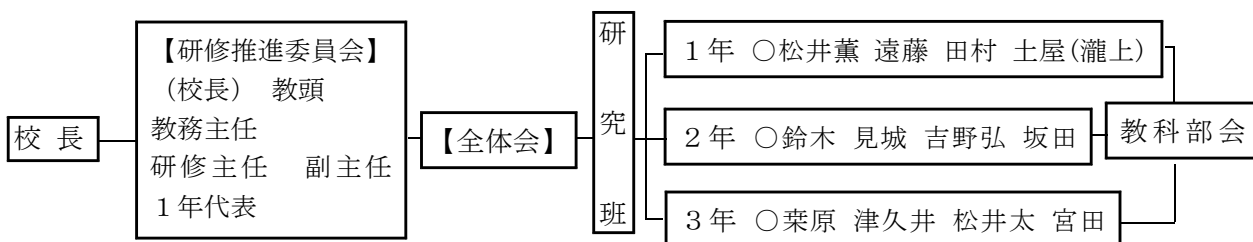
次期学習指導要領が昨年3月に公示された。生徒の目指す資質・能力として、「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性）」が掲げられた。また、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から学習過程の改善が示された。研究として「協同的な学び」を工夫・吟味し、充実させることは、次期学習指導要領の求めている「目指す素質・能力」を生徒に身に付けさせ、さらに教師力の向上につながるであろうと考えた。

### 3 研究の内容

#### (1) 研究のねらい

問題解決的な学習の過程を重視し、協同的な学びの形態や支援を工夫することによって、生徒が自らの考えを深める活動を行う。その活動を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高められるようにする。

#### (2) 研究組織



### (3) 実践の概要

- ・「問題解決的な学習の過程」を、①一人では解決が難しいが協同して学習することで解決することができそうな「チャレンジング課題」の設定、②グループやペアでの学習や「協同的な学び」を通じた課題の解決、③分かったことや考えたことをまとめる「振り返り」の活動、という学習の流れとし、「振り返り」に期待する生徒の姿を想定して学習内容を精選するように授業を計画する。
- ・「協同的な学びの充実」の具体的な手段を「課題」の設定、学習の「形態」、生徒への「支援」の工夫とし、思考力・判断力・表現力の育成に効果的な工夫の在り方を探っていく。その際、1人1公開授業及び授業研究会を実施し、他の教師の実践の成果と課題を共有しながら研修を深めていく。

### (4) 研究の経過

月日	内 容		○研修の視点（上段） ・明らかになったこと（下段）
6/15	3年 英語 Best Place in Kyoto	栗原教諭	<p>○4人グループで行う“Best Place in Kyoto”についてのポスターセッションにおいて、2種類のモデルを提示したり、1回目の活動と2回目の活動との間に、気づきを共有したりしたことは、事実や自分の考え、気持ちを聞き手に分かりやすく発表したり、聞き手からの質問に的確に答えたりすることができるようになる上で有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い例、悪い例の2種類のモデルの提示が、より良い発表につながった。</li> <li>・グループ活動を充実させるために、グループ活動の目的を伝えたり、ルールを設定したりすることが必要である。</li> <li>・全体での気づきの共有を充実させるために、焦点をしばった気づきの共有をしていく必要がある。</li> </ul>
6/22	1年 理科 植物の呼吸	吉野教諭	<p>○補助発問や友達への考え、写真の提示を学び合いの支援として活用したことは、課題について深く考えさせる手立てとして、有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの復習や個別の活動の時間が十分に確保されることで、活動が充実する。</li> <li>・話し合いを繰り返していく中で、補助発問を効果的に機能させることにより生徒の考えが深まっていく。</li> <li>・課題を提示する際、生徒の疑問から作ることで考えがさらに深まる。</li> </ul>
6/29	1年保健体育 体づくり 運動	遠藤教諭	<p>○体づくりの運動例を提示したことは、生徒が具体的な目標を設定するのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な運動例を提示したり、自分がどんな運動を選択するか考える時間を十分に確保したりすることで、活動が充実する。</li> <li>・グループを同じ運動毎に編成したことで、交流が図られ、活動が充実した。</li> <li>・本時のねらいの明確化が図れるとともに、生徒が見通しをもつために、今日の授業の流れを伝えることが必要である。</li> </ul>
7/11	3年 理科 遺伝の 仕組み	鈴木教諭	<p>○「血液型」という生徒にとって身近なことを課題に設定し、「個人→グループ→全体」という形態の変化を2回行い、「板書」に分離の法則について学習したことを掲示しておくことが、分離の法則による遺伝子の変化を推論できるようにする上で有効で</p>

			<p>あったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項から本時の課題を導くことで、生徒は意欲的に取り組んでいた。</li> <li>・生徒の気付きを共有する時間を設けることで、生徒同士での考えの深まりが生まれたのではないか。</li> <li>・「めあて」に対する「振り返り」を意識することで、学習が深まるのではないか。</li> </ul>
7/13	3年 国語 ビブリオバトル にチャレンジ	宮田教諭	<p>○ビブリオバトルを行い、グループ構成や発表順を工夫したり、黒板にルールやヒントカードを掲示したりすることは、聞き手に分かりやすく、的確に伝えるために有効だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルのような生徒の意欲を高める課題、グループ編成や机の合わせ方などの工夫が活動を充実させる。</li> <li>・困っている生徒にはヒントカードが効果的であるが、見る必要のある生徒だけに見せることで学習が高度化する。</li> <li>・「課題」に対する「まとめ」、「めあて」に対する「振り返り」を意識する。</li> </ul>
9/4	3年 社会 人権と 共生社会	津久井 教諭	<p>○「バリアフリー」について「個人→グループ→全体→個人」という過程で話し合いを行い、「校内」の身近な事例を写真で掲示したり、バリアフリーの補足資料を配布したりしたことは、共生社会を実現するための考えをもたせるのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題が生徒にとって身近であり、具体例の写真の提示や補助資料、ワークシートの工夫があり、個人で考える時間が確保されることで、グループでの話し合いが活発になった。</li> <li>・グループでの話し合いではホワイトボードは有効な手段である。</li> <li>・話し合いに関われない生徒へは、個別の支援の工夫が必要である。</li> <li>・全体での意見交流では、発表者と質問者のやりとりがクラス全体に伝わるように工夫したり、教師から揺さぶりの質問をしたりするとよい。</li> </ul>
9/13	2年 国語 壁に残され た伝言	見城教諭	<p>○「めあて」と「学習課題」を区別して掲示し、前時の学習内容やキーワードを提示し見通しをもたせてから「個人→グループ→全体→個人」という過程で学習を行ったことは、自分の考えを記述させるのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫くめあてを提示すると、「何のために学習するのか」が明確になる。</li> <li>・前時を振り返ることやヒントカードを提示することは、それぞれの生徒に合った支援として有効である。</li> <li>・「めあて」と「課題」を区別して生徒に伝えるためには工夫が必要である。</li> <li>・話し合いが活発に行われるために、メモの取り方や聞く側の視点を明確にする必要もある。</li> </ul>
9/27	1年 数学 一次方程式	田村教諭	<p>○「個人→グループ→全体→個人」という学習形態で、生活との関連を意識した未知数が2つある方程式を、ヒントカードや操作できる具体物を用意して考えさせたことは、1次方程式を用いて問題を解けるようにするために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「個人→グループ」の流れは、自分の考えをもつことができるため、グループ活動が充実しやすい。</li> <li>・生徒の実態に合わせて様々なヒントカードを用意したり、複数の考え方が出たときの協議の仕方を工夫すると効果的である。</li> </ul>

9/29	2年 数学 一次関数	松井太 教諭	<p>○「個人→ペア→グループ→全体→個人」という過程で、沼田市の観光を題材に、起こりうる移動の速さの変化を「グラフの傾き」に関連づけて考えたことは、グラフの変化や特徴を理解するのに有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題がオープンエンドになっていると、一人一人が主体的に考えることができる。</li> <li>・グループ活動に入る前に、ペア学習を行うと効果的である。</li> <li>・本時のねらいとする生徒の姿を教師が明確にもっておくと学習が深まる。</li> </ul>
10/17	1年 英語 オーストラリア の兄	松井薫 教諭	<p>○ペアでの活動を行う途中で、モデルとなる生徒の会話例を全体で共有したり、個に応じたヒントカードを活用したりする「人当てクイズ」を行ったことは、生徒の意欲を高め、既習事項を使って自分と相手以外の人について質問をしたり、答えたりすることができるようにするために有効であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでの学習により一人一人に責任感が生まれ、後半になるにつれてスムーズに会話できるようになった。</li> <li>・ヒントカードを配布したり、全体でモデルを共有した後に次に生かしたいことを記述させたりする活動が効果的だった。</li> <li>・めあての中に課題を入れたり、課題に必要感をもたせたりすると、生徒がポイントを押さえて活動に取り組むことができる。</li> </ul>

## 目指す生徒像（平成29年度）

沼田東中学校

### 目指す生徒像の全体像

○理由や根拠をあげて自分の考えを説明したり、論述したりすることができる生徒。
○交流を通して、自分の考えを明らかにしたり、深めたりすることができる生徒。

### 各教科・領域における目指す生徒像

国	○文章の内容や友達の考えを的確にとらえ、気付いたり考えたりしたことを、理由や根拠を明らかにして述べるができる生徒
語	○友達との交流を通して、自分の考えの深まりを表現することができる生徒
社	○課題の解決に向けて、必要な資料を選び適切な情報を取り出し、比較したり関連付けたりして、多面的に考えることができる生徒
会	○考えたことをまとめ、友達と交流する中で考えを深めることができる生徒
数	○数や式・図形の性質などの既習事項を活用しながら問題解決し、解決した方法や手順を、表や式、図等に表したりことばで説明したりして、自分の考えを分かりやすく伝えることができる生徒
理	○課題について、生活経験や既習事項をもとに予想を立て、説明したり、論述したりすることができる生徒
科	○観察、実験の結果から科学的な根拠をもとに交流し合い、考察することができる生徒
英	○自分の考えや気持ちを、簡単な語句や文を用いて、話したり、書いたりして表現できる生徒
語	○対話の中で、基本対話を基にして、互いに自分の意見や考えを伝え合うことができる生徒
音	○音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、強弱など）と曲想とのかかわりをふまえて、曲にふさわしい音楽表現を工夫して言葉で表せる生徒
楽	○音楽をその要素に基づく 根拠をもって批評できる生徒
美	○作者の意図を作品から積極的に読み取ろうとする姿勢をもつ生徒
術	○課題に対して、意図的に表現方法を選択できる生徒
	○鑑賞から感じたり考えたりしたことを言葉に表し説明できる生徒
	○他の意見に耳を傾け、自他の相違や共感によって、思考を深めることのできる生徒
体	○運動の特性を理解し各種の運動に必要な練習計画が選択でき、自分の考えを論述できる生徒
育	○運動の技能の向上や、体力向上における自己の課題を、能力に応じて解決できる生徒
技	○習得した学習内容を今後の生活にどのように生かしていくか論述できる生徒
・	○製作の目的や工夫点について説明できる生徒
家	○自分の生活を見つめ課題を発見し、解決するための工夫、創造ができる生徒
学	○日々の実践や体験活動を通して気付いたり、考えたりしたことについて、自分の考えをまとめ、発信することができる生徒
級	○多様な意見を聞いたり、考え方の違いに気付いたりして、自分の考え方や生き方についての自覚を深め、自己の意思決定に生かすことができる生徒
活	○資料を読んで感じたこと、考えたことを自分の言葉で表現できる生徒
道	○自分の考えについて、理由をつけて書いたり、発表したりできる生徒
徳	○友だちの意見に耳を傾け、自分の意見との相違をもとに思考を深めることができる生徒
総	○体験したことや収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めるとともに、他者に伝えたりまとめたりして、自分の考えを明らかにすることができる生徒
合	

## 研究の成果と課題

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### (1) 成果

- ・協同的な学びを充実させる工夫として「課題」の設定、学習の「形態」、生徒への「支援」に着目し、それぞれの観点において大切なことが教職員の間で共通理解することができた。
- ・話し合うことに生徒が慣れ、個で考える時間を十分に確保したり、学習のめあてや話合いのテーマが明確であれば、自然と司会、発表役などが決まり、意見交換や発表をすることができるようになってきた。
- ・協同的な学びの活動を繰り返し行うことにより、自分の考えや気持ちを意欲的に表現しようとする生徒が増えた。

#### (2) 課題

- ・協同的な学びの場面においては話合いなどの活動が多くなってしまいう傾向があり、生徒が考える時間を保証することが課題である。
- ・協同的な学びが充実するように、学習内容や課題、生徒の実態によって、特に学習の形態の吟味が必要である。
- ・「目指す生徒像」の実現に向けて、普段の授業の中でどのように活用していくか、検討していく必要がある。
- ・生徒から出た疑問から課題を見出したり、課題に必要感をもたせたりすることで活動が充実し、学習をより深めることができるであろう。
- ・「めあて」と「課題」を区別して生徒に伝えたり、「めあて」に対して振り返ることや「課題」に対してまとめることを教師が意識したりすることが難しく、工夫が必要である。
- ・話合いが停滞している場合や全体場面での交流は活発にならないこともあり、生徒自身で問題を解決していく力を高めるために更に工夫が必要である。

◇ 研修に携わった職員 ◇

校 長	宮 下 宏	
教 頭	清 水 昭	
教 諭	吉 野 弘(教務主任)	鈴 木 元 気(研修主任)
	遠 藤 仁	見 城 朋 子
	土 屋 直 子	津久井 仁 美
	栗 原 秀 明	松 井 太 郎
	田 村 晃 宏	松 井 薫
	宮 田 淳 子	瀧 上 藍
長期研修員	大 塚 純 子	
養護教諭	坂 田 佳 織	
事務長代理	吉 野 理 恵	



## ＜実 践 編＞

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 数 学
- ・ 理 科
- ・ 英 語
- ・ 音 楽
- ・ 保 健 体 育
- ・ 学 級 活 動

# 国語科学習指導案

平成29年9月13日(水) 第5校時

2年1組 教室 指導者 見城 朋子

## 授業の視点

<課題> 「めあて」「学習課題」について、見通しをもたせてから活動させたことは、本時の学びを自覚させるために適切だったか。

<形態> 「個→グループ→全体→個」という学習過程は、本時のねらいを達成するために適切であったか。

<支援> 前時の学習内容やキーワードを提示したことは、自分の考えを書かせるのに適切であったか。

1 テーマ 「壁に残された伝言」 報告文(ルポルタージュ)

2 本時のねらい

○筆者の思いを捉え、筆者のものの見方や考え方について、グループや全体での協同的な学びの場を通して、自分の考えをもつことができる。【読む能力】

3 授業の流れ

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
<b>【課題提示】</b> ・前時の確認をする。 ・めあてと活動内容を把握する。	8	・本時の授業は「全体のめあて」の達成を目指すものだという ことを明確にする。 ・めあての達成のために、どんな行動をするのか確認する。
<b>今日のめあて</b> ○筆者の思いを捉え、筆者のものの見方や考え方について、自分の考えを深める。		
<b>活動内容</b> ○「伝言の『あの日』が伝わっていく無限の連鎖は、今も続いている。」ということばに込められた筆者の思いについて、自分の考えを書こう。(個人→グループ→全体→個人)		
		・前時の学習を想起させ、キーワードなどを示す。
<b>【課題追究Ⅰ】</b> ・自分の考えをもつ。	10	・キーワードや本文のサイドラインを引いた部分などに着目させ、 全員が自分の考えを書けるようにする。
<b>【課題追究Ⅱ】</b> ・グループで意見の交流をする。	10	・活動の目的や視点を伝えたり、約束ごとを確認したりしてから 取り組ませる。 ・友だちの考えをメモする際の工夫などについても触れる。
<b>【課題追究Ⅲ】</b> ・全体で意見の交流をする。	17 ⑩	・挙手を基本とするが、意図的指名も行う。 ・発表者が自信をもてるように、同じグループの友だちを推薦さ せるなどする。



# 国語学習指導案

平成29年7月13日(木) 第2校時

3年1組教室 指導者 宮田淳子

## 授業観察の視点

<p><b>【課題】</b> 自分の考えを伝え合い深めることに、ビブリオバトルを行うことは適切だったか。</p> <p><b>【形態】</b> 発表しやすいように、グループ構成や発表順を工夫したことは適切だったか。</p> <p><b>【支援】</b> 生徒が主体的に活動するために、黒板にルールやヒントカードを掲示しておくことが適切だったか。</p>
--

### 1 テーマ 「ビブリオバトル」にチャレンジ

### 2 本時のねらい

聞き手にわかりやすく伝えるために、広範な内容をまとめ、興味を引くように構成し、わかりやすい言葉で発表できるようにする。

### 3 授業の流れ

学 習 活 動	時 間	学習の支援及び留意事項									
<b>【課題提示】</b> 本時のめあて 進行の仕方	5	○めあてとルールや進め方を黒板に掲示する。 ①ルール説明 ②振り返りシート配布									
<b>【めあて】</b> 時間を有効に使い、内容や感想をまとめて、聞き手に本の良さを伝えよう。											
<b>【課題追究Ⅰ】</b> ビブリオバトル	3 2	○協同的な学びを充実させるための工夫を行う。 ・グループの編成 ・話し合いやすい机の配置 ・発表順 ・ワークシート ・ヒントカード ※できる限り教師は円滑な進行のサポート役に徹し、生徒に主体的に活動させる。									
<b>【観点】</b> 評価項目(方法) <span style="float: right;">(△：C規準、○：B規準、☆：A規準)</span> ○聞き手に本の良さを伝えることができる。 ☆聞き手が興味をもち、その後のディスカッションが盛り上がるように本の良さを紹介することができる。											
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 40%;"><b>【具体的な生徒の姿】</b></td> <td style="text-align: center; width: 20%;"></td> <td style="text-align: center; width: 40%;"><b>&lt;生徒への支援&gt;</b></td> </tr> <tr> <td>△本の良さをうまく伝えることができず時間をもてあましている。</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>事前にヒントカードを黒板掲示し、簡単な説明をしておく。グループの人からのアドバイス。発表順の工夫。</td> </tr> <tr> <td>○内容やあらすじや感想だけの発表しかできない。</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>ヒントカードの活用。 聞き手の発問の工夫。</td> </tr> </table>			<b>【具体的な生徒の姿】</b>		<b>&lt;生徒への支援&gt;</b>	△本の良さをうまく伝えることができず時間をもてあましている。	→	事前にヒントカードを黒板掲示し、簡単な説明をしておく。グループの人からのアドバイス。発表順の工夫。	○内容やあらすじや感想だけの発表しかできない。	→	ヒントカードの活用。 聞き手の発問の工夫。
<b>【具体的な生徒の姿】</b>		<b>&lt;生徒への支援&gt;</b>									
△本の良さをうまく伝えることができず時間をもてあましている。	→	事前にヒントカードを黒板掲示し、簡単な説明をしておく。グループの人からのアドバイス。発表順の工夫。									
○内容やあらすじや感想だけの発表しかできない。	→	ヒントカードの活用。 聞き手の発問の工夫。									
<b>【課題追究Ⅱ】</b> 投票・結果発表	5	○グループごとに挙手で投票させ、チャンプ本を選ぶ。 ○1班から選ばれた人がチャンプ本を発表する。									
<b>【振り返り】</b>	8	○自分の考えを伝えるためには、どのような発表をすればよいか考えさせる。									

# 「ビブリオバトル」にチャレンジ

( ) 組 ( ) 番 ( )

## お気に入りの一冊

作者
----

## グループの人のお気に入りの一冊

名前	紹介した本	メモ・感想・良かった点

グループのチャンプ本を選ぼう。(上の表の名前に丸をつけよう。)

## 振り返り

### 自分の発表について

- ・内容やあらすじをうまくまとめて話せたか。はい・いいえ
- ・五分間を有効に使って話せたか。はい・いいえ
- ・本の良さを伝えることができたか。はい・いいえ
- ・聞き手に興味をもたせるような話し方ができたか。はい・いいえ

### ディスカッションについて

- ・他の人の発表を集中して聞いたか。はい・いいえ
- ・積極的に質問できたか。はい・いいえ

自分の考えを他の人に伝えるためには、どんなことに気をつければよいと思うか。

他の人のよかったところを踏まえて書こう。

--

## 4 成果と課題

〔成果〕

- ◎ビブリオバトルが子どもの意欲を高める課題であった。
- ◎グループ編成や机の合わせ方などの工夫がされていた。
- ◎ヒントカードが困っている生徒に効果的であった。

〔課題〕

- ねらいの達成にむけて、学習の課題⇒まとめ、めあて⇒振り返り、の区別をする。
- 活動前や発表途中での支援の仕方を、上手なモデルを見せる、ヒントカードを事前に配布し見たい生徒だけ見る、など工夫する。

# 社会科学習指導案

平成29年9月4日(月) 第2校時  
3年1組 指導者 津久井 仁美

## 授業の視点

＜課題＞「バリアフリー」について「校内」と身近な事例を用いたことは、自分の考えをもたせるのに適切であったか。  
 ＜形態＞”個人→グループ→全体→個人”という過程で話し合わせたことは、適切であったか。  
 ＜支援＞校内のバリアフリーになっているところを、写真で掲示したり、バリアフリーの補足資料を配布したりしたことは、自分の考えをもたせるのに適切であったか。

### 1 テーマ 「個人の尊重と日本国憲法」 2節 人権と共生社会

### 2 本時のねらい(予想される生徒・グループの姿とその支援)

○学校内のバリアフリーについてのグループでの話し合い活動を通して、人権について関心を持ち、共生社会を実現するために自分にできることや大切なことを考えようとしている。

【関心・意欲・態度】

### 3 授業の流れ

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
〔課題提示〕 ・前時の確認 ・課題の把握	8	・「バリアフリー」という用語の確認をし、校内のバリアフリーになっている場所を発表する。
【学習課題】 校内でバリアフリーにした方がよいところや改善した方がよいところについて、話し合おう		
〔課題追究Ⅰ〕 ・バリアフリーにした方がよいところなどを個人で見つける	10	・前時に確認したバリアフリーの工夫について再確認し、補足資料を参考にさせ、自分なりの考えをもてるようにする。
〔課題追究Ⅱ〕 ・グループで話し合う	10	・予め、司会を決めておき、話し合いがスムーズに進むようにする。 ・特によい意見をホワイトボードに書かせ、発表の準備をさせる。
【観点】評価項目(方法) ○：自分なりの考えをもち、グループでの話し合い活動に意欲的に参加している。 ☆：多くの視点から考えをもち、グループの中心となって話し合い活動をまとめている。 (観察、ワークシート)		
〔具体的な生徒の姿〕 ・自分の考えを持ってない ・自分の考えを一つはもてた		〔支援〕 → バリアフリーの工夫や補足資料を再度確認させる。 → 資料を再度確認させ、違った視点からも考えられるよう助言する。
〔課題追究Ⅲ〕 ・全体で共有  ・まとめ	15	・各グループの発表を聞き、質問や反論などを出し合い、考えを共有し深める。  ・「共生社会」実現のために、大切なことや自分にできることを書かせる。
〔振り返り〕 ・「平等権」の学習を振り返る。	7	・本時までの「平等権」の学習を振り返って、わかったことや気付いたことを書かせる。

#### 4 成果と課題

##### 〔成果〕

- ◎生徒にとって身近な課題で、自分のこととして考えることができていた。
- ◎課題追究において、生徒個人で考える時間が確保されていたので、その後のグループの話合いが活発に行われた。
- ◎グループでの話合いにおいて、ホワイトボードの使用は有効的な手段である。生徒が意見をまとめやすかった。
- ◎事前にグループの話合いの際の司会、発表者を決めていたのでスムーズに話合いが進められた。
- ◎具体例の写真の提示、補助資料、ワークシートの工夫により、生徒の考えを広げることができた。

##### 〔課題〕

- 課題設定の工夫がもう少し必要。
  - ・生徒にとってより必要感のある課題に。
  - ・生徒にとっては、バリアフリーが当たり前すぎて、思いつかない生徒もいる。
- 話合いに積極的に関われない生徒もいたので、そうした生徒への個別の支援が必要。
- 考えを深める支援の工夫が必要。
  - ・グループの意見の発表を共有する場面で、教師からの揺さぶりの質問をする。
  - ・発表者と質問者とのやりとりが、クラス全体に伝わるようにする。
- まとめの「共生社会実現のために大切なこと、自分にできること」が少しテーマが大きいので、ヒントやテーマを狭めることが必要。

# 数学科学習指導案

平成29年度9月29日(金) 第1校時  
2年1組 指導者 T<sub>1</sub> 松井太郎  
T<sub>2</sub> 宮田淳子

## 授業の視点

- <課題> 「グラフの傾き」について、見学地に行くまでの出来事になぞらえることは、グラフの変化や特徴を理解するのに適切であったか。
- <形態> 個人→ペア→グループ→全体→個人 という過程で意見交換したことは適切であったか。
- <支援> 沼田市の観光を題材に、起こりうるシチュエーションをグラフの傾きになぞらえて考える活動にしたことは、グラフの変化や特徴を理解するのに適切であったか。

1 テーマ  
「1次関数とグラフ」 第3章 1次関数 3 1次関数の利用

2 本時のねらい  
具体的な事象を一次関数を利用してとらえ、グラフの傾きから速度の変化などの特徴に気づき、それを理解することができる。【知識・理解】

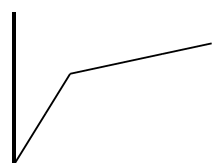
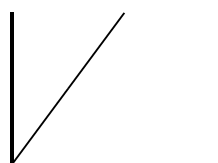
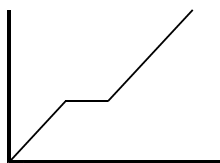
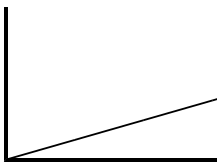
## 3 授業の流れ

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
・ ex 1 について <u>個人</u> で考える [学習課題の把握]	5	T <sub>1</sub> ・2: 教師間で旅の経験の会話をし、ヒントにする。 T <sub>1</sub> ・2: ex 1 の動きとグラフの傾きについて、速さが変わったり止まったりするとどうなるか、必要に応じてヒントを与える。

### 【学習課題 I】

ex 一次の問題はどのグラフになるでしょう。

- ①今日は、小松姫のお墓がある正覚寺の観音祭りに行くために、家から自転車で正覚寺まで行くことにしました。
- ②今日は、およそ280年前に作られた沼田城の城鐘を見るために、家から自転車で中央公民館まで行くことにしました。目的地に行く途中、文真堂の前で友達に会いそこから歩いて一緒に行くことにしました。
- ③今日は、玉原湿原に水芭蕉の写真を撮りに車で連れて行ってもらうことにしました。しかし、途中で「だんご汁」の旗を見かけ、お腹が空いたので食べていくことにしました。
- ④今日は、日本のナイアガラと呼ばれ、竜宮伝説のある吹き割れの滝に自動車で連れて行ってもらうことにしました。



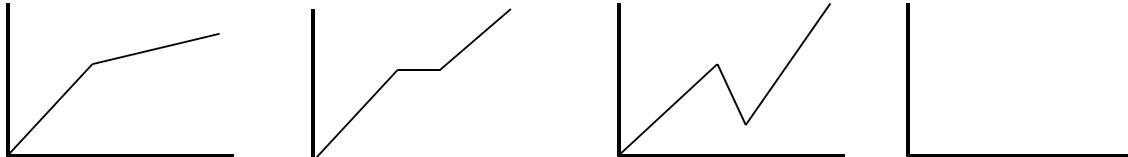
### 【課題追究 I】

- ・ グラフの傾きで起こった出来事を ペア で考えていく。

10

T<sub>1</sub>: できているグラフの出来事に何が起こったか物語を付けさせ、迷っているペアには変化している所を考えるよう投げかける。  
T<sub>2</sub>: 必要に応じて生徒と共に考えたり、周りの生徒にヒントを与える。



<p>〔課題追究Ⅱ〕</p> <p>・ペアで考えた物語を出し合い、<u>グループ</u>で物語を一つ作り上げる。</p>	15	<p>T<sub>1</sub>：話し合いに詰まったり煮詰まっている班にはもう一本線を書き足し、登場人物を増やしてみることを提案する。</p>
<p>〔学習課題Ⅱ〕</p> <p>発問：今日は、久米民之助によって整備された沼田公園で友達と待ち合わせ。そこで、グラフに行くまでの出来事を書いてみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>		
<p>T<sub>1</sub>：沼田市観光マップの紹介を行う。</p> <p>T<sub>1</sub>：傾き変化の理由を明確にすることをルールとして確認する。</p> <p>T<sub>1</sub>・2：机間巡視を行い、良いアイディアのグループの情報交換をし、全体で紹介することで思考の幅を広げるとともに肯定感をもたせる。</p> <p>T<sub>1</sub>・2：グラフの角度で明らかな間違いがあった場合は、角度と速さについて確認する。</p>		
<p>〔観点〕評価項目 知識・理解（方法）</p> <p>○具体的な事象を一次関数を利用してとらえ、グラフの傾きから速度の変化を理解し、それを利用してグループでグラフの説明に取り組むことができる。</p> <p>☆具体的な事象を一次関数を利用してとらえ、グラフの傾きから速度の変化を理解し、それを利用してグループで多面的な考えを取り入れたグラフの説明に取り組むことができる。</p> <p style="text-align: right;">（観察・ワークシート）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="215 1052 478 1086">〔具体的な生徒の姿〕</div> <div data-bbox="1005 1052 1093 1086">〔支援〕</div> </div> <p>△途中で起きたことを考えることができない。→グラフの角度が変わるとどういふことが変わるのかを確認する。その場面ではどのようなことが考えられるか投げかける。</p> <p>○グループでグラフを完成させそれぞれが説明できる。→それぞれの考えを更に出し合ったりもう一つのグラフを組み合わせて考えてみたりすることを提案する。</p>		
<p>〔課題追究Ⅲ〕</p> <p>・グループで話し合っただけ決めたことを実物投影機に映して説明する。</p>	10	<p>T<sub>1</sub>：いくつかのグループの意見を拾い上げて説明してもらう。</p>
<p>〔課題研究〕まとめ</p> <p>・一次関数のグラフの特徴をとらえ一次関数のグラフの動きを再確認する。</p>	5	<p>T<sub>1</sub>：一次関数のグラフの傾きが何を表しているかを確認し、そこから様々なことが分かり、無機質なものばかりではないことを再確認する。</p>
<p>〈振り返り〉</p> <p>・本時の授業の学習を振り返る。</p>	5	<p>T<sub>1</sub>：本時の授業で「グラフの傾き」について、分かったことや気付いたことを書かせる。</p>

#### 4 成果と課題

##### 〔成果〕

- ◎全体への発表の時にグラフのポイントとなる部分を投げかけて考えさせることができている。
- ◎発問に対する答えがたくさん考えられると、一人一人が自分で考えてやる気になる。
- ◎学習課題Ⅰが学習課題Ⅱに取り組むために効果的だった。
- ◎ペア学習が効果的であった。

##### 〔課題〕

- 話を作るおもしろさに目が行き、グラフの傾きに目が行きにくくなってしまっていた。
- 傾きの違いと速さの違いをしっかりと押さえ比較等含めグラフを見られるようにしていく。
- 本時のねらいとする生徒の姿を教師がもっと明確にもっておく。
- グループの必要性を検討していく。

# 数 学 科 学 習 指 導 案

平成29年9月27日（水）第5校時

1年2組教室 指導者 田村 晃宏

（課題）具体的な事象を用いて、未知数が2つある方程式を考えさせたことは、協同的に学ぼうとする意欲を引き出すために適切だったか。

（形態）「個→グループ→全体→個」という学習形態の変化は、本時のねらいを達成するために適切だったか。

（支援）生徒が主体的に考えるために、ヒントカードや操作できる具体物を用意したことは適切だったか。

## 1 テーマ 1次方程式の利用

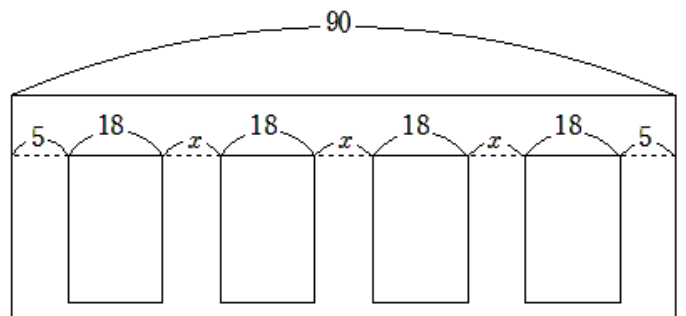
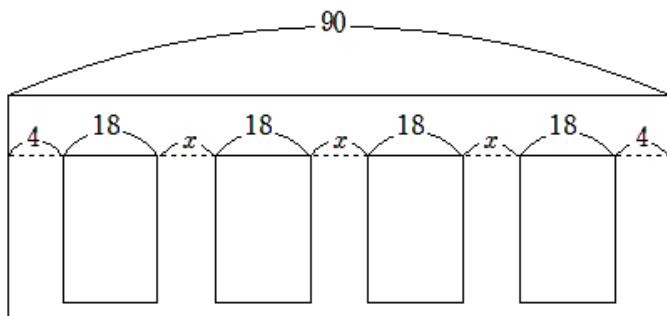
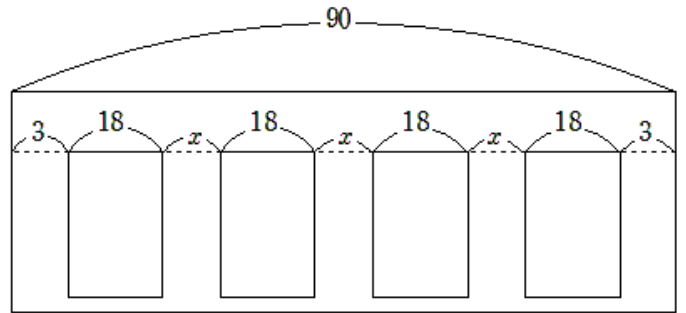
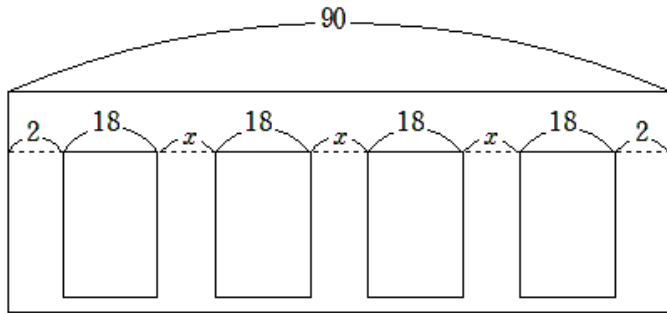
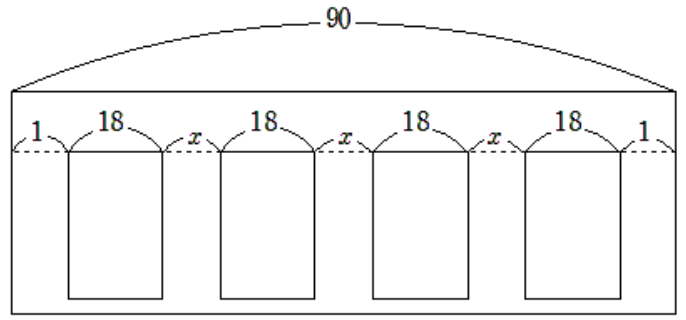
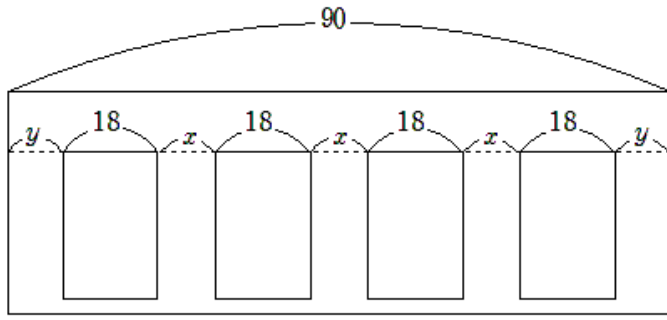
## 2 本時のねらい

具体的な事象の中から数量の関係を捉える活動を通して、1次方程式を用いて問題を解決することができるようにする。

## 3 授業の流れ

学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
[課題提示] ・前時までの復習をする。 ・めあてと課題を把握する。	10	・金額に関する文章題に取り組みせ、求めたいものを文字でおいて立式することを確認する。
めあて：1次方程式を使って、写真を等間隔に貼る方法を考えよう。		
横の長さが90cmの模造紙に、幅が18cmの写真を横並びに4枚貼ろうと思います。両端の間隔も含めてすべての間隔が同じになるようにするには、間隔を何cmにすればよいか求めなさい。		
[課題追究Ⅰ] ・間隔を $x$ cmとして方程式 を作って解く。 $5x + 18 \times 4 = 90$ $x = \frac{18}{5}$	10	・黒板に模造紙と写真を貼り、すきまが何カ所になるか確認させる。 ・ワークシートに図をかき、分かっている長さを記入させる。 ・求めたいものを文字でおいて横の長さに関する式を作らせる。 ・求めた解が分数（小数）になることを全体で確認する。
[課題追究Ⅱ]	20	・黒板で実際に並べてみて、分数だと長さが測りにくいことを確認する。
すべての間隔を整数にするには間隔を何cmにすればよいか求めなさい。ただし、両端とすきまの間隔はそれぞれ別でもよい。		
・個人で考えてからグループで話し合う。		・両端については、別の文字をおくか、具体的な数をあらかじめ決めておくことよということを生徒の実態に合わせて個別に伝える。
<b>【数学的な見方や考え方】</b> 1次方程式を用いて間隔を何cmにしたらよいか考えられる。（観察・ワークシート） ○両端の間隔を整数で決めてからすきまの間隔を求めることができる。 ☆複数の答えを求めることができ、その中から最適な答えを選ぼうとしている。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">                         [具体的な生徒の姿]                          △求め方を全く考えられない。                          2元1次方程式を作れたがそれ以上進めない。                          ○1組だけ答えを求めて満足している。                     </div> <div style="width: 45%; text-align: right;">                         &lt;生徒への支援&gt;                          → 生徒の実態に合わせて適切なヒントカードを渡す。                          → 他の答えがないか探させ、実際に具体物を操作させながらどの答えがよいか考えさせる。                     </div> </div>		
[課題追究Ⅲ] ・全体で発表する。	5	・各グループの発表を聞き、考えを共有する。 ・意見が一通りになってしまったら、別の意見を教員が補足する。
[振り返り] ・分かったことをまとめる。	5	・2元1次方程式を1元1次方程式として考える方法や、日常生活で方程式を利用する場面について考えさせる。

## ヒントカード



### 4 成果と課題

〔成果〕

◎生活との結びつきを意識したためあてになっていた。

◎「個→グループ」の流れが適切で、グループの中で教え合ったり相談できたりしていた。

◎図を入れたヒントカードが分かりやすく、また種類も豊富だったので、生徒の実態に合わせて支援できていた。

〔課題〕

●課題の難易度が高く、低位の生徒には難しかった。

●班の中で答えが複数出たときの協議のさせ方や発表のさせ方を工夫するとよかった。

●例題を解く場面でも「個→グループ」の流れで考えさせてから板書してもよかった。

授業の視点

教師のようす

・補助発問や人の考え・写真の提示を学び合いの支援として活用したことは、課題「植物の呼吸」について深く考えさせる手立てとして、有効であったか。

生徒のようす

・班の学び合いや演示実験の観察、読み物資料を通して、植物は昼間も呼吸をしていることが理解できたか。

- 1、テーマ 「植物の呼吸」
- 2、本時のねらい 植物は夜だけでなく、昼も呼吸していることを理解し、まとめることができる。(知識・理解)
- 3、展開

学習活動	時間	学習への支援・留意点
・本時の学習内容の提示と説明	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数人の生徒のプリントの紹介(本時のつなぎとして活用)</li> <li>・本時のテーマ「植物の呼吸」の記入。</li> <li>・「光合成」と「呼吸」についてまとめる。</li> <li>呼吸については前時で確認したことにつけ加えて、栄養分の必要性・エネルギーについて説明する。</li> <li>・「呼吸をしないと…」と発問。「生きられない、死んでしまう」という言葉を確認する。(後の学び合いの支援として活用するため)</li> </ul>
<p>【課題】植物の昼間はたらしきについて、昔の科学者達の考えは、次のように分かれていました。                  これが正しいと思いますか?                  ア、昼間は二酸化炭素を吸って酸素を出す、という呼吸をしている。                  イ、昼間は呼吸をしていない。夜だけ呼吸している。                  ウ、昼も人と同じように、酸素を吸って二酸化炭素を出す呼吸をしている。</p>		
・自分の考えを書く	20	(予想される考え) ア：呼吸と光合成を混同している。 イ：前回の実験の結果を元にして。昼は光合成だけをしているということ。 ウ：呼吸の必要性(生きるため、エネルギーを得るため)を考えている。 ?：迷っている。見当がつかない。
・全体で		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ア～ウについて、挙手させる。</li> <li>・「？」で迷っている理由があれば、発表。理由によっては、全体に取り上げる。</li> <li>・アは、呼吸と光合成を混同している。問答で光合成と呼吸は同じではないことを確認し、修正。アの考えはイに集約される、ということになる。</li> <li>・イが多く、ウが少数だろう。イ・ウについて簡単に確認し、補助発問。</li> </ul>
・班で		<p>〈補助発問 イ・ウのどちらだろうか、呼吸の意味を考えながら相談しよう。〉</p>
・全体で		<ul style="list-style-type: none"> <li>・班を周りながら生徒の考えを把握、「呼吸しないと…」と投げかけてみる。</li> <li>・「呼吸しているかもしれない」の考えが広まってきたら(広まってほしいが…)、写真を提示し、考えを揺さぶってみる。また疑問点が出てきたら、取り上げる。</li> </ul>
・班で		<p>〈補助発問 呼吸をしているのに、BTB溶液が青に戻ったのはなぜ?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい発問。昼間は呼吸より光合成の方が盛んだから、という考えが出されればすばらしい。</li> <li>・学び合いが深まらなければ、実験に入る。</li> </ul>
・演示実験	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が用意したもの(サクラなどの葉)を準備し、簡単に実験内容を説明する。</li> <li>・結果の予想については、生徒と問答で確認する。</li> <li>・石灰水は徐々に白くなるだろう。昼間も二酸化炭素を出していたことを確認する。(実験がうまくいかないことを想定し、予備の「葉」を準備しておく。)</li> <li>・読み物資料を範読し、昼夜ともに呼吸をしていることを確認。</li> <li>・わかったこと、振り返りを書かせる。</li> <li>・数人に発表させる。</li> <li>・プリントを回収する。</li> </ul>
・今日の授業でわかったこと(振り返り)		<p>【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昼間も植物は呼吸していることがまとめられている。</li> <li>☆ 昼間は呼吸もしているが、光合成の方が盛んなので…という文言を入れて、まとめられている。(発言・ワークシート)</li> </ul>

4、成果と課題

【成果】

- ◎前時までの復習、個別の活動が十分に確認されていた。  
(書く時間を確保し、全員が自分の考えに加え、理由も書けていた。)
- ◎効果的な補助発問で、小集団(グループ)と全体を行き来して思考を深める。  
(話し合いを繰り返していく中で、自分の意見が変化していつている。)
- ◎振り返りの習慣化と、読み物資料の効果的な活用。  
(わかったことを書く欄がある。補助資料もあることで、自分の変容も書きやすそう。)

【課題】

- 課題の提示、生徒から出た疑問から作る。  
(ア・イ・ウの選択肢の考えを生徒から出すことができる。)

●Aの生徒へのさらなる支援（読み物資料などに盛り込めればよい）

# 理 科 学 習 指 導 案

平成29年7月11日(火) 第5校時

3年2組教室 指導者 鈴木 元気

## 授業観察の視点

- (課題)「血液型」という生徒にとって身近なことを課題に設定したことが適切だったか
- (形態)「個別>小集団>全体」という形態の変化を2回行ったことが適切だったか
- (支援)「板書」に分離の法則について学習したことを掲示しておくことが適切だったか

### 1 テーマ 遺伝の規則性

### 2 本時のねらい

血液型の遺伝による変化を調べる実習を通して、遺伝の規則性(分離の法則)を確認し、その仕組みによる変化を推論できるようにする。

### 3 授業の流れ

学 習 活 動	時 間	学習の支援及び留意事項
[課題提示] ・課題をつかむ	10	・クラスの血液型の割合や日本人の血液型の割合の資料をもとに、血液型がどのようにして受け継がれていくのか、疑問をもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                         &lt;くめあて&gt; 分離の法則によって、血液型が遺伝するとどうなるのだろうか。                     </div>
[課題追究Ⅰ-1] ・予想を立てる	2	・分離の法則の復習を行う。(優性形質、劣性形質についても触れ、血液型については0型が劣性形質であることを伝える) ・それぞれの血液型が遺伝していった場合にはどのような割合になるかを確認する実習を行うことを伝える。 ・実習の方法について確認する。(モデルを見せる)
[課題追究Ⅰ-2] ・実習を行う	3	
[課題追究Ⅰ-3] ・血液型の割合を調べる	10	
[課題追究Ⅱ-1] ・予想を立てる	2	実際の自分の血液型を使う。(ただし、A,B型は純系とする) ・実習を行う前に、割合になっているかを予想させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>【思】</b> 血液型の変化を予想できる。(ノート) (○:B規準、☆:A規準)                          ○: 1回目の結果をもとに予想を立てることができる。                          ☆: 1回目の差異を意識して予想を立てることができる。                          &lt;具体的な生徒の姿&gt; &lt;支援&gt;                          まったく予想が立てられない → 1回目の結果に着目させる                          分離の法則を確認させる。                          1回目と結果と同じ予想 → 1回目の今回の違いに着目させる。                          させる。                     </div>
[課題追究Ⅱ-2] ・実習を行う	3	
[課題追究Ⅱ-3] ・血液型の割合を調べる	10	
[振り返り] ・分かったことをまとめる	10	・この活動をして、分かったことや気付いたことをまとめさせる。 <表れてほしい生徒の記述> ・血液型が分離の法則によって変化していく様子が分かった。 ・もともとの割合が違っていると、その後の割合も変化していく。

# 実習の方法

## ステップ1 遺伝子カードを配布して、使い方を確認する

- ①一人一人に A, B, O の遺伝子カードを 2 枚ずつ配布する。
- ②遺伝子の組合せを考えさせることで、優勢形質、劣性形質について確認する。

<血液型の組合せ> AA, AO : A 型 / BB, BO : B 型 / AB : AB 型 / OO : O 型

A, B → 優勢形質 : 子に現れる形質  
O → 劣性形質 : 子に現れない形質

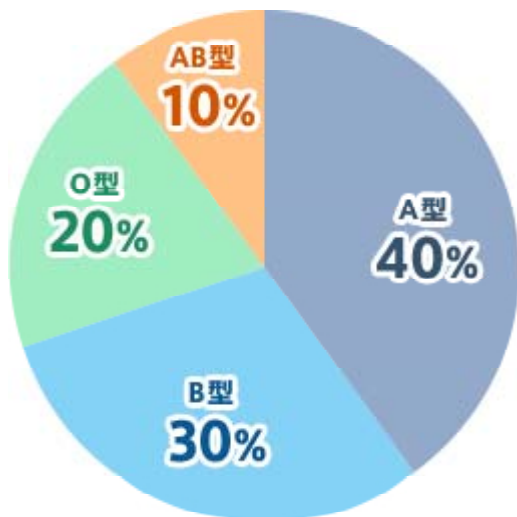
## ステップ2 遺伝子を組み合わせてどのように変化していくか調べる

- ①自分の血液型の遺伝子カードの組合せを 2 枚だけ袋に入れて、2 人ペアをつくる。
- ②お互いに袋の中を見ないようにして、1 枚ずつ引いて子の血液型を決定する。
- ③新しく決まった血液型の遺伝子カードに入れ替え、新しいペアをつくる。
- ④ ②～③を繰り返す < 3 分間 >

<参考>

日本では・・・

A 型が 40% B 型が 30% O 型が 20% AB 型が 10%



## 4 成果と課題

〔成果〕

- ◎既習事項の確認すると生徒はよく理解しており、そこから本時の課題を導くことができていた。
- ◎遺伝子カードの活用して生徒が意欲的に実習することができていた。
- ◎生徒のつぶやきを取り上げて全体へ伝えることで、理解を促すことができていた。

〔課題〕

- 「めあて」と「振り返り」を一致させることで学習が深まるのではないか。
- 明らかになったことを共有する時間を設けることで、生徒同士での考えの深まりが生まれたのではないか。

# 英語科の実践 I

平成29年6月15日（木曜日）第4校時 3年2組（3年2組教室）

指導者 T1 栗原 秀明 T2 宮田 淳子 T3 Darren Kampou

1 単元名 Best Place in Kyoto

2 考察

(1) 教材観

①学習内容：新学習指導要領上の位置づけ

・目標

話すこと [発表] イ日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

話すこと [やり取り] イ日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

②主な伸ばしたい（身に付けたい）資質・能力

・自分で作成したポスターを見せながら、事実や自分の考え、気持ちを簡単な語句や文を用いて、聞き手に分かりやすく発表する力

・聞き手からの質問に対して、自分の考えや気持ちを即興的に伝える力

③教材の特徴

本校では、5月下旬に2泊3日の奈良・京都方面への修学旅行に行ってきた。歴史ある、魅力的な建造物に触れる絶好の機会となった。様々な見学場所を訪れたことにより、生徒は他の人にぜひ伝えたいと感じる場所に出会えたと思われる。生徒が実際に訪れ、気に入った見学場所を1つ取り上げ、その見学場所の情報と気付いたことや感じたことをもとに、ポスターやスピーチ原稿を作成する。生徒は4人グループになり、順にポスターを見せながらスピーチをし、互いの質問に即興的に答えるポスターセッションを複数回行うことで、発表ややり取りに自信をもたせることができる。その後同様の流れでALTとのパフォーマンステストにつなげていきたい。言語材料としてはプログラム1、2で学習した受動態や現在完了の3つの用法を既習事項として、活用することができる。これらの活動を通して、ポスターを見せながら、自分の考えや気持ちを英語で表現する力や聞き手からの質問に対して、自分の考えや気持ちを即興的に伝える力を育成できると考える。

④必要な指導・活動

・グループによるポスターセッション

・既習の疑問文やその答え方を復習するQ&A活動

・リアクション表現やプラスワン表現の習得

⑤今後の学習の活用

・2学期にトピックを変え、同様の形式でALTによるパフォーマンステストと練習の場としてのグループによるポスターセッションを行う。

(2) 生徒の実態及び指導方針（男子15名 女子12名 計27名）

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

事前アンケートから、多くの生徒が授業での表現活動（話す・書く）に熱心に取り組んでいる。会話練習や音読を頑張ろうとしている生徒が半数程度いる。これは、使える英語を身に付けるため、会話練習や音読の必要感を感じているとともに、それらの活動をしていて楽しいと思っているからだと思われる。一方で、難しい単語があったときや英作文をしているときに難しいと感じている生徒も6割程度いるので、英語学習の意欲を維持させるために、すべての単語を完璧に理解する必要はないということや語順を中心とした英作文のコツをアドバイスしていく必要がある。

教師の観察から、活動への取組は全体的に前向きで、男女とも協力的である。ただ、内気な性格の生徒が男子に数人見られ、全体での発表においては消極的な態度が見られる。そのような生徒もペア活動やグループ活動には参加しやすいようであるので、学習形態を工夫しながら活動に意欲的に取り組ませたい。



【表現の能力】

「書くこと」では、2年次に実施した「こんな人になりたい」についてのスピーチ原稿の作成において、70語以上で書けた生徒が約6割、60語以上が3割、50語以上が1割であった。モデル文を参考にして、辞書を使いながら自分の考えや気持ちを書くことができる生徒が多いが、英作文において個別支援が必要な生徒も3、4名いる。

「話すこと」では、声の大きさをはじめ、発音やアクセント、イントネーションに留意して活動している生徒は多いが、一つ一つの単語を発音することを優先してしまい、英語のリズムへの意識が低く、棒読みになってしまう生徒も数名見られる。また、教師やALTからの質問にスムーズに答えられる生徒は半数程度である。帯活動で、既習の疑問文やその答え方を復習するQ & A活動を行い、質問への応答を習熟させていきたい。

【理解の能力】

「聞くこと」に関しては、4割の生徒が「好き」あるいは「得意」と感じている。リスニングの市販教材を使用して、継続して一定量の対話文を聞いている成果が出ていると思われる。ただ、ALTがナチュラルスピードで英語を話したときに、聞き取ることができない生徒も見受けられるので、速いスピードで話された英語に対しても、キーワードを聞き取り、おおまかな意味を理解する力を養ってきたい。

【言語や文化についての知識・理解】

「主語＋動詞」の文の構成を意識して文を書いている生徒は多い。スペルミスはときどき見られるものの、全体的に見れば正しく単語を書けている。しかし、立場が変わる言い方である受動態の活用がうまくできない生徒も見受けられる。この単元で、必然的に受動態が使われる場面を設定し、受動態も適切に用いることができるようにさせたい。

3 単元の目標

"Best Place in Kyoto" について、自分で作成したポスターを見せながら、事実や自分の考え、気持ちを聞き手に分かりやすく発表したり、聞き手からの質問に対して自分の考えや気持ちを即興的に伝えたりすることができる。

4 指導計画（全5時間予定）

評価 規 準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	"Best Place in Kyoto"について書いたり、話したりする活動に積極的に取り組んでいる。		
	表現の能力	"Best Place in Kyoto"について自分の考えや気持ちを英語で発表したり、聞き手からの質問に的確に答えることができる。		
	理解の能力	※この単元では、理解の能力は評価しない。		
	言語や文化についての知識・理解	受動態や現在完了形、不定詞の用法について理解している。		
時間	過程	伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識・技能等	思考力・表現力等	
第1時	課題把握	言語材料： 受動態、現在完了形、不定詞	・構想メモをもとにショートスピーチを書く力	"Best Place in Kyoto"についてショートスピーチを書く。
第2時	課題追究	言語材料： 受動態、現在完了形、不定詞 リアクション表現 プラスワン表現	・構想メモをもとにショートスピーチを書く力	"Best Place in Kyoto"についてショートスピーチの続きを書く。
第3時	〃	言語材料： 受動態、現在完了形、不定詞	・スピーチの内容に沿ったポスターを作成する力	ポスターセッション用のポスターを作成する。

		リアクション表現 プラスワン表現	る力 ・ポスターを見せながら、自分の考えや気持ちを英語で表現する力	スピーチの発表練習をする。
第4時	〃	言語材料： 受動態、現在完了形、不定詞 リアクション表現 プラスワン表現	・ポスターを見せながら、事実や自分の考え、気持ちを英語で表現する力 ・聞き手からの質問に即興的に答える力	"Best Place in Kyoto"についてグループによるポスターセッションを行う。
第5時	まとめ	言語材料： 受動態、現在完了形、不定詞 リアクション表現 プラスワン表現	・ポスターを見せながら、自分の考えや気持ちを英語で表現する力 ・聞き手からの質問に即興的に答える力	A L T に "Best Place in Kyoto" をスピーチし、A L T からの質問に答える。(パフォーマンステスト)

### 5 本時の展開 (4 / 5)

- (1) ねらい "Best Place in Kyoto"について、事実や自分の考え、気持ちを相手を意識しながら発表したり、聞き手からの質問に的確に答えたりすることができる。
- (2) 準備 教師 教科書、モデル提示用ポスター、タイマー、振り返りシート、BGM用のCD  
生徒 教科書、ノート、弾丸インプットシート、自作のポスター、スピーチ原稿
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 あいさつをする。 2 弾丸インプットシートを用い、ペアで口頭練習を行う。 3 Today's Goal や授業の流れを理解し、見通しをもつ。	10分	・教師の後について読みの確認をした後にペアを替えながら会話を行わせる。 ・アイコンタクトを意識しながら、より自然な英会話に近づけるように促す。
<b>[Today's Goal]</b> "Best Place in Kyoto"について相手を意識しながら発表し、聞き手からの質問に的確に答えよう。		
4 グループによるポスターセッション ①教師が提示する2種類のモデルを見て、やり方を理解するとともに目指す姿をイメージする。 ②個人でリハーサルを行う。	5分  5分	・生徒一人一人が目指すレベルを明確にできるように、概ね満足レベルと十分満足レベルの2種類のモデルを提示する。  ・リラックスした雰囲気の中で活動できるようにBGMを流す。 ◎個別支援が必要な下位群の生徒に対して、発音やアクセントを中心に支援する。
③4人グループになり、ポスターセッションを行う。	25分	・発表順が1番の生徒から1人につき2分30秒ずつでポスターセッションを行う。 ・グループでの1回の活動時間を10分とする。また、1回目終了後に活動中の気付きを全体で共有し合い、2回目の活動の質を高められるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回目の活動は、グループのメンバーを替えて行わせる。</li> <li>◎聞き手からの質問が聞き取れないときは、"Pardon?"などの表現を使い、再度言ってもらうように助言する。</li> <li>◎事前調査から把握した下位群の生徒がグループ内で発表および質疑応答をしているときに、個別支援を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇"Best Place in Kyoto"について、事実や自分の考え、気持ちを相手を意識しながら発表したり、聞き手からの質問に的確に答えたりすることができる。(観察・自己評価)【表現】</p> </div>	
5	自己評価（本時のねらいに対する振り返り）を行う。	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りシートを配付し、生徒が本時のねらいに沿って活動を振り返ることができるようにする。</li> </ul>

## 6 板書計画

Today's Goal  
"Best Place in Kyoto"について相手を意識しながら発表し、聞き手からの質問に的確に答えよう。

リアクション表現	質問例	授業の流れ
聞き取れなかったとき → Pardon? 「すてき」と思ったとき → Sounds nice! Beautiful! 驚いたとき → Oh, really? 「なるほど」と思ったとき → I see. 同意するとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Why did you choose it?</li> <li>・ What is the best memory there?</li> <li>・ Do you want to go there again? ... etc</li> </ul> 「もちろん」と思ったとき → Yes, of course. 言葉が出てこないとき	リハーサル（個人） ↓ 1回目の活動（グループ） ↓ 気付きの共有（全体） ↓ 2回目の活動（グループ） ↓ 振り返り（個人）

## 7 成果と課題

〔成果〕

- ◎良い例、悪い例の2種類のモデルの提示が、よりよい発表につながった。
- ◎スピーチを聞いた後、質問ができる生徒がいるグループは内容が深まっていた。

〔課題〕

- 質問例があったが、質問できない生徒も多かった。1人1回必ず質問するなどのノルマがあったほうがよい。(グループ活動を充実させるために、決めごとが必要である。)
- 全体での気付きの共有が2回目の活動にあまり生かされていなかった。よりよい活動にしていくために、質問例を増やすなどの焦点をしぼった気付きの共有をしていく必要がある。
- グループ活動の目的を生徒に伝えることで生徒は必要感をもって活動に取り組むようになる。

## 英語科学習指導案

平成29年10月17日(火) 第5校時  
1年2組 於1年2組 教室  
指導者 松井 薫  
ALT Darren Campeau

### 授業の視点

<課題>単元の振り返りとして「人当てクイズ」を行ったことは、生徒の意欲を高め、既習事項を使って会話をする場面設定として適切であったか。

<形態>ペアでクイズ活動を行う途中で、モデルとなる生徒の会話例を全体で共有したことは、学びを深めるために有効だったか。

<支援>個に応じたヒントカードの活用は、ねらいを達成するために有効であったか。

1 単元名 オーストラリアの兄 (Unit6 New Horizon English Course 1)

2 考察

(1) 生徒の実態 (男子8名、女子13名、計21名)

○本時に関わる事前調査より

1. あなたは英語の授業内容が分かりますか。

項目	回答数 (%)	項目	回答数 (%)	項目	回答数 (%)	項目	回答数 (%)
分かる	10 (48)	大体分かる	9 (43)	よく分からない	2 (9)	分からない	0 (0)

2. あなたが英語の学習で頑張っていることは何ですか。(複数回答可)

項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数
発言	8	英会話練習	10	リスニング	7	ノート作り	1
音読	5	自主勉強 (単語練習)	10	ワーク (問題演習)	13	英作文	1

3. あなたが英語で伸ばしていきたい力は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数
文章を読み取る力	15	文章を書く力	16	聞き取る力	14	スピーチ、 プレゼンテーション力	3
会話をする力	12	その他	1				

4. 次の英文を日本語にしてください。(「」内は正答)

問題	正解数 (%)	誤答数 (%)
①I watch TV every day. 「私はテレビを毎日見ます。」	18 (86)	3 (14)
②Yuka isn't from Tokyo. 「ユカは東京出身ではありません。」	14 (67)	7 (33)
③Do you eat natto? 「あなたは納豆を食べますか。」	20 (95)	1 (5)

5. 次の日本語を英文にしてください。(「」内は正答)

問題	正解数 (%)	誤答数 (%)
①あなたはカレーを作りますか。 「Do you cook (make) curry?」	9 (43)	12 (57)
②あなたは何が欲しいですか。 「What do you want?」	14 (67)	7 (33)
③これは何ですか。 「What's this?」	13 (62)	8 (38)

### 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

〔質問項目2、3より〕「英会話練習」に頑張っており取り組んでいるという自己評価をした生徒の割合が、1学期の7名から10名に増え、若干ではあるが帯活動のインプットシートや文法定着を目的とした会話活動への取組に積極的になろうとする様子が見える。また、質問項目3ではそれぞれの生徒が複数項目に渡って回答をしており、全般的に英語能力を伸ばしたいという意欲が見られる。しかし、他の3技能と比べ「話す力」を要

する「スピーチ・プレゼンテーション力」や、「会話をする力」をつけたいという回答が少なく、定期テストや単元テストに向けた力を伸ばしたいという気持ちが強いことが推測される。

〔教師の観察より〕活動に真剣に取り組むが、発言に消極的な生徒が多い。基本文チャンツや弾丸インプットのような対話の基本練習に対しては、明るい雰囲気に取り組めるようになってきた。

【表現の能力】

〔質問項目 5 より〕前単元までに学習した、be 動詞や一般動詞の問題である。①は語順はしっかりできているものの、細かいスペルミスが多くあった。②、③に関しては be 動詞と一般動詞を一緒に使うなどのミスやクエスションマーク忘れが目立った。

〔教師の観察より〕

生徒は日ごろから大きな声で発音練習に取り組むなど、意欲的に取り組む姿勢が見られる。書く作業では、集中してその日に学習した内容を書き取る姿勢が見られるが、その一方、読み書きが苦手で書き写す作業に時間がかかり、また、集中できない生徒も数名おり、下位生徒への支援として、音読練習や基本的な文法問題への取組を通した反復練習を行う必要があると感じる。

【理解の能力】

〔質問項目 4 より〕前単元までに学習した、be 動詞や一般動詞の問題である。①、③に関しては正答率が高く、単語の意味や文法の用法を正しく理解していることが分かる。②は「住んでいる」「出身地は…」等、大体の意味が取れているが正確に捉えられていない回答が多かった。

〔教師の観察より〕授業での様子から、教師の classroom English を理解することができている。

【言語や文化についての知識・理解】

〔教師の観察より〕小学校での英語学習で学んだ表現から、知っている単語や文章も多くある。しかし、夏休み明けの英単語テストでは練習不足が明らかになり、地道に反復練習に取り組ませる支援が必要だと考えられる。新出文法用の問題演習では、基本的な知識を要する問題での得点は良好であるが、細かいミスが見られるため、復習活動が有効と考えられる。

(2) 教材観

【教材内容より】

本題材は、咲がスピーチでオーストラリアに住んでいる兄の生活ぶりについて紹介し、その内容についてアレックスが質問をしたり、オーストラリアに生息するコアラについて咲とベッキーが対話をしたりしながら展開していく。

【言語材料より】

本教材では、Part1 で一般動詞の三人称単数現在の肯定文、Part2 で疑問文、Part3 で否定文を扱う。いずれも、第三者を紹介する場面で必ず用いられる重要な文法事項である。「三人称」の主語によって動詞の形が変化するという概念は日本語にはないため、生徒がつまづきやすいと考えられる。

第三者について一般動詞を使った文章が言えるようになることで、その場にいらない人について紹介できたり、有名人について情報交換ができたりと表現の幅が大きく広がる。導入にあたっては、教師による Oral Introduction を行い、新出言語材料を含む会話の内容を聞き取ったり、読み取ったりすることをねらいとして指導する。

(3) 教材の系統 (時制)

第1学年	第2学年	第3学年
Unit2 be 動詞現在形		
Unit3 一般動詞現在形		
<u>Unit6 三人称単数現在</u>	Unit1 be 動詞過去形	Unit2 現在完了形 (継続)
Unit9 現在進行形	Unit2、Unit4 未来形	Unit3 現在完了形 (経験・完了)
Unit11 一般動詞過去形		

3 指導の方針 (◇は道徳教育に関わる方針)

- ・文法を苦手とする生徒でも負担なく取りかかれるよう、新しい文法の導入場面では、まず知っている英語やジェスチャーを用いて音声から導入し、内容を生徒に推測させる。

- ・初めて触れる文法をより確実に、より楽しく定着させるため、繰り返し発音練習をさせる。また、練習方法も「ペア」「クラス全体」「個人」など形態を変えて行う。
- ・基本文チャンツやインプットシートでの帯活動を行うことで、英語を話しやすい雰囲気を作る。
- ・相手意識を高めるため、相づち表現やアイコンタクトを意識しながらの会話活動に取り組めるよう支援する。
- ・「三人称」の主語で動詞の形が変わるという日本語にはない概念をしっかりと伝え、使い分けられるよう指導する。
- ・テストに向けた技能の習得に偏らず、コミュニケーションでの伝える喜びを実感させ、積極的に表現活動に取り組めるよう工夫して指導をする。

◇読み方が分からない生徒や問題につまずいた生徒に周りが積極的に教えることを指示し、助け合いのコミュニケーションを意識させる。(内容項目 B-9 相互理解)

<校内研修との関わりから>

- ・本校英語科では「学びの深まり」を「伸ばしたい(身に付けたい)資質・能力の向上」と定義している。
- ・毎回の授業の最初にその時間に本時のめあて(Today's goal)を示し、見通しをもたせる。
- ・新出言語材料を使って、自分の考えや気持ちなどを書く表現活動を行い学習内容の定着を図る。
- ・振り返り活動として新出言語材料を使った活動を行い、定着や実践力の向上を図る。
- ・生徒の思考を補助できるようなワークシート、下位の生徒を支援できる段階的なヒントカードを活用する。
- ・授業の終わりに学習カードにて、Today's goal を振り返り、自己評価をさせる。
- ・単元の振り返りとして、既習事項を使って伝えたり、書いたりする活動を取り入れる。その際、技能を深め合うための手段として、ペアでの会話活動やグループでの交流を取り入れる。

【授業中における生徒指導】

- ・教師が率先して傾聴したり賞賛したりして模範を示し、友達の発言や発表をしっかりと聞いたり、友達の意見を認め合えたりする雰囲気をつくる。(共感的な人間関係を育む指導)
- ・よい発言、積極的な発言を賞賛し、自らコミュニケーションを取ろうとする意欲をもたせる。(自己存在感を与える指導)
- ・自分自身の体験を表現したり、自分の意見を表現したりする場を設定する。(自己決定の場を与える指導)
- ・指名の際は「～さん」「～くん」をつけ、言語環境に気を付ける。(人権教育に配慮する指導)

4 単元の目標

- 自分と相手以外の人やものなどについて話すことができる。
- 自分と相手以外の人やものなどについて尋ねることができる。

5 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語・文化についての知識・理解
・自分と相手以外の人やものなどの情報を伝えようとしたり、尋ねたりしようとしている。	・三人称単数現在形を含んだ文を使い、自分と相手以外の人について話したり、尋ねたりしている。	・対話の際、友だちの質問を聞いて内容を適切に理解している。 ・英語で書かれた内容を正しく読み取っている。	・三人称単数現在形の文の構造を理解し、意味や用法に関する知識を身に付けている。

6 学習計画および評価計画(9時間予定:本時はその6時間目) ○おおむね満足 ☆十分満足







学習活動	時間	評価項目(方法)	観点			
			関	表	理	知
・一般動詞三人称単数現在形の肯定文や否定文の用法を確認し、自分で考えたアバターについて相手に伝えることができる。	1	○表現を理解し、適切に応答している。 ☆表現を理解し、積極的に応答している。(観察・ワークシート)	○			
・Unit6-1の内容を理解する。	1	○本文を理解し、本文を読み取っている。 ☆ヒントなしで対話を理解し、本文を読み取っている。(観察・ワークシート)			○	

・三人称単数現在形の疑問文と否定文の用法を確認し、応答することができる。	1	○表現を理解し、適切に応答している。 ☆表現を理解し、積極的に応答している。(観察・ワークシート)				○
・Unit6-2の内容を理解する。	1	○対話を理解し、本文を読み取っている。 ☆ヒントなしで対話を理解し、本文を読み取っている。(観察・ワークシート)				○
・Unit6-3の内容を理解する。	1	○対話を理解し、本文を読み取っている。 ☆ヒントなしで対話を理解し、本文を読み取っている。(観察・ワークシート)				○
・三人称単数現在、既習の表現を使って、相手に質問をしたり、質問に対して応答したりしてクイズ活動を行うことができる。	1 本時	○友だちのアドバイスやヒントカードを参考に、英語で質問をしたり、答えたりしている。 ☆既習事項を適切に使い分けながら、英語で質問をしたり、答えたりしている。(観察・ワークシート)				○
・電話で、相手を招待したり、誘ったりする対話を行うことができる。	1	○基本表現を使って、電話で相手と会話をしている。 ☆様々な表現を使って、電話で相手と会話をしている。(観察・ワークシート)				○
・友だちを紹介するスピーチを聞いて、その人についての情報を聞き取ることができる。	1	○問題の6割以上正解している。 ☆問題の8割以上正解している。(ワークシート)				○
・Unit6の単元テスト	1	○6割以上正解している。 ☆8割以上正解している。(テスト)				○

### 7 本時の学習

- (1) ねらい 三人称単数現在等の既習事項を使って、自分と相手以外の人について質問をしたり、答えたりすることができる。【外国語表現の能力】
- (2) 準備 CDプレイヤー、タイマー、ワークシート、ヒントカード、学習カード
- (3) 展開

学習活動	時間	学習への支援及び留意点	
		JTE	ALT
1 導入 (1) あいさつ  (2) Warm-up ①チャンツ 基本文チャンツを、音楽に合わせて歌う。 ②インプットシート ペアで役割を決め、本時の活動に対応できる表現を使って会話をする。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒にあいさつをする。</li> <li>・役割を提示し、生徒と共に歌う。</li> <li>・会話活動の指示を出す。また、机間支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日、日付、天気を尋ねる。</li> <li>・机間支援をしながら、共に歌う。</li> <li>・机間支援を行う。</li> </ul>
2 展開 (1) Oral introduction JTE、ALTによる三人称単数現在を使ったデモンストレーション(Who is this?クイズ)を開き、本時の到達モデルと、クイズの内容を確認する。 (2)本時のめあての確認 Today's goalを確認し、本時の最後に何をできるようになるか意識する。	5           5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人で対話をし、どのような内容だったか推測させる。</li> <li>・「どのような文法表現を使っていたか」とポイントをあげる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>Today's goal</b>            自分と相手以外の人について質問をしたり、答えたりすることができる。         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを提示することで、活動に対する意欲をもたせる。</li> </ul>	

<p>(3)三人称単数現在を使った表現活動 (Who is this?クイズ)</p> <p>①活動の説明を聞く。</p> <p>②前時で各々が書いたプロフィールシートを、ランダムに配布する。</p> <p>③配布されたプロフィールシートの情報を元に、隣の席の友だちと、クイズを行う。</p>	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の仕方を説明する。</li> <li>・教室黒板寄りの生徒を中心に机間支援を行う。</li> <li>・ペアでの会話の途中で、モデル会話を示す。</li> </ul> <p>【1回目】</p> <p>○文法的に正しい会話 (生徒)</p> <p>【2回目】</p> <p>○様々な表現を使いながらクイズに取り組むことを意識した会話 (生徒)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JTE と共に、発話練習をさせる。</li> <li>・教室ロッカー寄りの生徒を中心に机間支援を行う。</li> </ul>						
<p>【外国語表現の能力】 (観察・ワークシート)      ○ : おおむね満足      ☆ : 十分満足</p> <p>○既習事項を使って、英語で質問をしたり、答えたりしている。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問したい内容を、どのように英語で表現するのか分からない。</li> <li>・ヒントカード①の読み方が分からない。</li> </ul> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;"> <p>[生徒への支援]</p> <p>ヒントカード①の使用を促し、使う表現のアドバイスをする。</p> <p>ヒントカード②の使用を促す。</p> </td> </tr> </table> <p>☆既習事項を適切に使い分けながら、英語で質問をしたり、答えたりしている。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を使って相手に質問ができている。</li> </ul> </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;"> <p>[生徒への支援]</p> <p>よりよく質問できている友だちのモデルを見ることで、より多様な表現で質問したり、自然に発話したりできるよう働きかける。</p> </td> </tr> </table>				<p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問したい内容を、どのように英語で表現するのか分からない。</li> <li>・ヒントカード①の読み方が分からない。</li> </ul>		<p>[生徒への支援]</p> <p>ヒントカード①の使用を促し、使う表現のアドバイスをする。</p> <p>ヒントカード②の使用を促す。</p>	<p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を使って相手に質問ができている。</li> </ul>		<p>[生徒への支援]</p> <p>よりよく質問できている友だちのモデルを見ることで、より多様な表現で質問したり、自然に発話したりできるよう働きかける。</p>
<p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問したい内容を、どのように英語で表現するのか分からない。</li> <li>・ヒントカード①の読み方が分からない。</li> </ul>		<p>[生徒への支援]</p> <p>ヒントカード①の使用を促し、使う表現のアドバイスをする。</p> <p>ヒントカード②の使用を促す。</p>							
<p>[具体的な生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を使って相手に質問ができている。</li> </ul>		<p>[生徒への支援]</p> <p>よりよく質問できている友だちのモデルを見ることで、より多様な表現で質問したり、自然に発話したりできるよう働きかける。</p>							
<p>④友だちのモデルを聞き、いい表現を意識して、違うペアでクイズを行う。</p> <p>(何回か繰り返す)</p>									
<p>3 振り返り自己評価を行う。</p>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードに自己評価を記入させ、本時の活動を振り返らせる。</li> </ul>							

【成果】

- ◎ペア学習により、責任感が生まれていた。後半になるにつれてスムーズに会話できるようになった。
- ◎ヒントカードが有効的だった。
- ◎全体でいいモデルを共有後、次に生かしたいことを書かせたことがよかった。

【課題】

- 場面設定に、より必要感をもたせると生徒のやる気につながる。
- めあての中に、課題を入れると生徒がポイントを押さえて活動に取り組むことができる。
- めあてを提示する際に、教師の押さえる B の姿、A の姿を生徒と共有しておくことが大切。
- モデルの姿から、子どもたち自身に気付かせ、次のペアワークに生かせるとよい。



# 保健体育科学習指導案

平成29年6月29日(木) 第2校時  
1年2組 場所 体育館 指導者 遠藤 仁

## 授業の視点

### 教師のようす

体づくりの運動例を提示したことは、生徒が具体的な目標を設定するのに有効であったか。

### 生徒のようす

ワークシートへの記入や、協同学習での活動が自己の具体的な目標設定を導くことに有効であったか。

- 1 領域・単元名 領域：体づくり
- 2 本時のねらい 新体力テストの結果より、自己に適し体力バランスを考えた目標がたてられる。
- 3 展開

学 習 活 動		学 習 の 支 援 及 び 留 意 事 項
準備運動 体ほぐし グループで バランス 交流 巧みな動き	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・袋を膨らませてのリフティング。</li> <li>・二人で向き合いバランスを崩すゲームを交代しながら行う。男女の交流を促す。</li> </ul>
柔軟性 ストレッチ ペアでのストレッチ	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでのストレッチを3つ行う。</li> <li>資料を参考に正しく行うように促す。</li> </ul>
本時の説明 自分が高めたい体力のトレーニングを具体的に考える事を伝える 自分でまずひとつ 仲間の発表を参考にもうひとつ		<p>バランス良く、大きな8角形となることを目標とすることを促す。跳躍力、投力、柔軟性、巧緻性、握力など、生徒が高めたいと思っている運動を実際に行ってみながら、いつ、どのように行うのか具体的な場面設定、内容について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスケットボールを投げる 両手 片手</li> <li>・手足挙げ ・ジャンプ 体全部を使って大きくジャンプ</li> <li>・座ってジャンプ ・グーパー法</li> </ul> <p>継続させたい運動を選び、量、回数を考えシートに記入</p>
<p>本時の評価項目 (思考・判断)</p> <p>○自己に適した運動の量、回数を設定することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動における発言、学習シートへの記入内容を見取り支援する。</li> <li>・記入内容のよいところを賞賛し、自信がもてるよう支援する。</li> </ul> <p>☆交流場面で、仲間が具体的に目標設定できるようアドバイスしている。(見取り・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言、発表のよいところを賞賛し、より活発に交流できるよう支援する。</li> </ul>		
選択した運動によりグループ分けを行う グループ内で自分の記述内容を伝え合う 全体で共有する もう一つの運動を選ぶ	30	<p>人数などを考え、男子2グループ、女子3グループ程度とするリーダー(発表者)を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードにて発表する。</li> <li>・グループ内で効果的だと思われる運動量、回数を話し合い、ホワイトボードに記入し発表する。</li> <li>・交流を通して自分が設定した回数等を修正するように促すとともに、もうひとつの運動を選び、量、回数をシートに書き加える。振り返りを学習シートにまとめる。</li> </ul>
予想される生徒の反応 【Cの反応】 高めるための運動が見付からない。 【Bの反応】 仲間の考えを参考に、目標を具体的にとらえることができる。 【Aの反応】 グループ内の交流を通して、仲間にはたらきかけることができる。		<p>予想される生徒の反応に対する支援</p> <p>【Cの反応】 声をかけ、仲間の発言・記入内容を参考にさせる。</p> <p>【Bの反応】 記入内容を称賛し、自信がもてるよう支援する。 自己の能力に適した目標を確認しながら称賛する。</p>
片付け 次時の連絡	5	健康観察 次時の連絡 授業後、学習ファイルを集める

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ◎運動例を行いながら、自分がどんな運動を選択するのか、個別に考える時間が十分に取れていた。
- ◎選んだ運動によりグループ編成をしたことで、交流が図られ、考えが深まった。
- ◎ホワイトボードに記入して全体で共有することができた。
- ◎体力テストの結果を図式化することで、自分の課題が見付けやすかった。

### 【課題】

- 日ごろから、必要なものを学習場所に持参する習慣を心掛けさせたい。
- 授業の流れを全体で確認することで、本時のねらいの明確化が図れるとともに、生徒が見通しをもつことができるのではないかな。